

# EAST TIMES

東日本保証広報誌 2022 夏号



特集

「みなおす」





## 建設現場の安全対策をみなおす

特集「みなおす」

# 建設現場での安全管理、手詰まり感の打開へ 働く人の声を聞き、従来の対策を「みなおす」

独立行政法人労働者健康安全機構  
労働安全衛生総合研究所 安全研究領域 特任研究員 博士(工学)

# 高木 元也氏

巻頭インタビュー

これ以上どうすればいいのか。建設現場の安全管理に手詰まり感がある。死亡者数が下げ止まり、今後、作業員の高齢化や外国人労働者の増加など新たなリスク要因が加わる中、状況打開には新たな対策が不可欠だ。従来の対策で「みなおす」べきは何か。建設現場での安全管理を専門に研究する独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 安全研究領域 特任研究員の高木 元也氏に聞いた。

や現場に潜む危険を確認したり、日々、安全の施工サイクルを回したりして、現場の安全確保に努めてきました。それが、こうした結果につながっているのです。ところがいま、ご指摘のように下げ止まりの傾向がみられます。労働災害防止に向け新たな対策が必要とされています。

### 死亡災害を繰り返す背景に ルール順守の限界という現実

——下げ止まり傾向の中で起きている死亡災害とはどのようなものなのでしょうか。

高木 昭和23年(1948)から令和2年(2020)までの長期で見れば、死亡者数はピーク時の約1割まで減少しました。これは昭和47年(1972)の労働安全衛生法施行が大きく効いています。その後、年間1000人前後を行ったり来たりする時代が続きました。平成9年(1997)になると同1000人を安定して切るようになり、多くの現場では作業手順書を基に作業内容

安全の基本ルールが必ずしも守られていないという現実があるからです。そこには、人間の特性が引き起こすヒューマンエラーが深く関わっています。ルールを意識的に守れないこともある一方、結果として守れないこともあるのです。

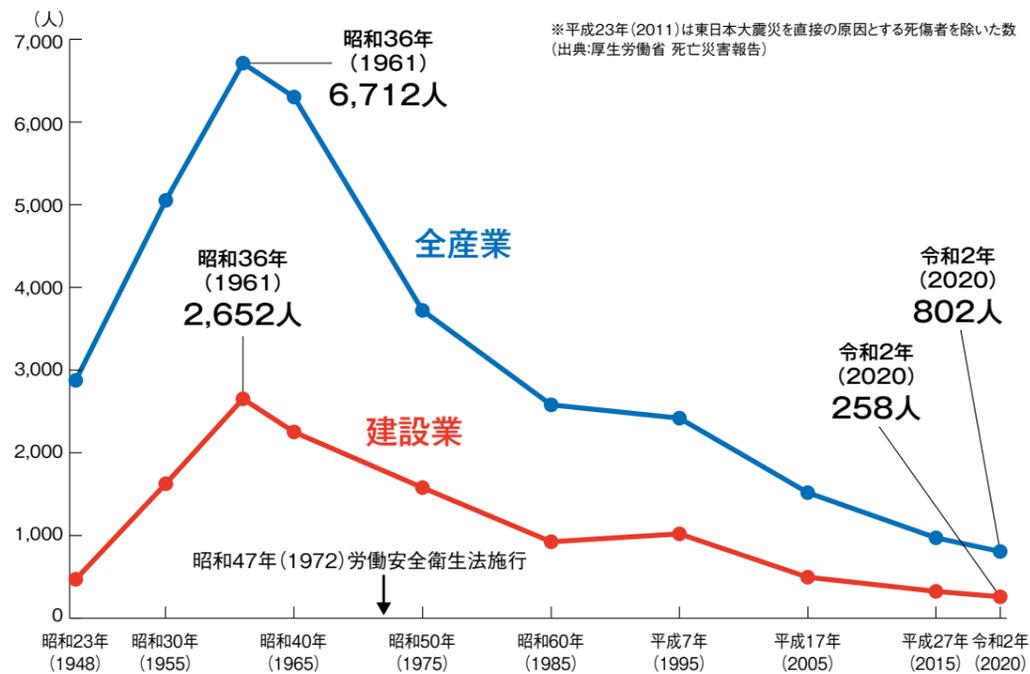
例えば重機災害の事例として、舗装工事で路面の締め作業に

専念する作業員が後退するダンプトラックにひかれるというものがあります。舗装面の品質を高めようと作業に集中するあまり、後退するダンプトラックの警報音が耳に入らなかったのです。人間は自身で意識したものにしか注意を向けられないのです。

——人間の特性が引き起こす災害への対策としてはどのようなことが考えられますか。

高木 一つには、ICT建機の活用など設備面での対策が考えられます。

●労働災害による死亡者数の推移



ち入ることを想定した対策を講じることが現実的です。

死角をなくすのは、その一つです。人間は勝手なもので、自らの視界に作業員の姿がないと、「周りには人はいないだろう」と楽観的に考え、都合よく作業を進めようとする場合があります。オペレーターが死角に気を付けるだけでは限界です。自家用車では標準装備となりつつある後方確認用のバックカメラをバックホウでも義務化すべきです。

もう一つ重要なのは、現場の声を吸い上げ、安全の基本ルールが守られない理由を明らかにすることです。

**基本ルールを徹底できない理由  
を作業員との対話で掘り下げる**

現場で基本ルールを徹底できないのはなぜなのかを掘り下げることを通じて、必要な対策を見極めるといったことですか。

「ダンプトラック等、重機の移動による災害」など、13の頻発事故に該当することが分かりました。そこで、この13の頻発事故を撲滅しようとして、受注者に対し13の頻発事故の周知、それぞれの再発防止対策として人間の特性を踏まえたヒューマンエラー対策などの情報提供に努めてきました。

その結果、レベル1の事故（休業4日以上死傷災害+重篤な物損）の件数は、アクションプラン策定前、2011年度の24件から減少し、2020年度には7件にまで抑えられました。発注者自ら事故防止に取り組み、受注者の事故防止意識が格段と高まるのです。

今後は、作業員の高齢化や外国人労働者の増加などにより、新たなリスク要因が見込まれます。災害防止にはどのように臨むべき



自身で意識したものにしか注意を向けられないのが人間の特性だ (イラストレーション:スタートライン ミヤチ ヒデタカ)

**高木** そうです。現状、現場の安全活動はトップダウン型が多く、そこには作業員との対話はありません。作業員は作業計画や作業手順などに従い作業にあたってきました。それがこれまでの常識です。

しかし今後は、作業員がそれらの計画や手順に従うことができるのか、従うことが難しいところはなにかなどを見つけ、それに合わせ見直すことが必要なのです。それによつて、作業員が無理なく基本ルールを守るように改めるのです。現実には起きている本当のことは、現場の作業員しか知らないのです。現場でなぜ基本ルールを守れないのかを作業員から丹念に聞き取り、その結果を作業計画や作業手順の見直しにつなげていくこと

ですか。

**高木** 高齢化については、50代の作業員に要注意です。厚生労働省では令和2年(2020)3月、「高齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン(エイジフリーガイドライン)」を策定するなど、高齢者対策を進めています。高齢者というと60歳以上がターゲットになりがちですが、50代も、30代との比較では熟練度は高いにも関わらず労働災害発生率は5割程高いことが分かっています。外国人労働者については今後間違いなく増えていく中、建設現場の外国人労働者の災害は「墜落・転落」よりも「はさまれ・巻き込まれ」が多いなど、外国人特有の発生原因がある可能性があり、それを明らかにすることが大きな課題です。

が求められます。こうして作業員が自ら話し合いに参加し改定された作業手順書や安全作業マニュアルであれば、作業員としてもその内容を受け入れやすくなります。さらに、こうした取り組みは安全意識の向上にもつながります。話し合いを通じて現場の安全を自らの問題として捉え直す機会につながるからです。今後、現場の安全活動を推進するためには「作業員との対話」がとても重要になってきます。

**発注者が安全活動を推進すると  
受注者の安全意識が大いに高まる**

災害防止に向け発注者側にもできることがあるように思います。発注者にはどのようなことが期待されますか。

**高木** 協力を求められ携わった例として、東京都水道局の取り組みがあります。水道局では平成24年(2012)度以降、3カ年計画である「水道工事事務事故防止アクションプラン」を策定し、発注工事での事故防止に取り組んでいます。このプランでは災害発生件数について数値目標を定めています。そうすることで災害防止の取り組みを

さらに、危険感受性の低下がとりわけ若年層で問題視されています。危険感受性の向上を図るため、VR(仮想現実)機器を用いた危険体感教育も実施されるようになってきました。一過性に終わりがちです。危険感受性を高めるためには、先輩から災害やヒヤリハットの体験を聞くことにより、それを自分の身に置き換える、危険感受性の向上につなげることができそうです。

令和6年(2024)4月以降、時間外労働の上限規制が建設業にもいよいよ適用されるなど、建設現場の働き方改革が本格化します。このことにより、建設現場の安全管理は新たな局面を迎えます。働く人の安全と健康を確保する取り組みが、ますます求められます。現場の声に耳を

組織全体に浸透させています。

アクションプランに基づく受注者への向き合い方は、指導ではなく情報提供です。過去の災害やヒヤリハットを分析すると、その約3分の2が「第三者災害」「一般車両による作業員及び誘導員の災害」

**行動目標**

①レベルⅠ以上の工事事故を年間8件以下(新規)  
・前アクションプランの行動目標から更なる減少を目指す(年間10件⇒年間8件)。  
**第三者災害を年間4件以下(新規)**  
・前アクションプラン期間中に発生した事故件数(4件/年)以下を目指す。

②年間を通じて死亡事故ゼロ(継続)  
・前アクションプランの行動目標を継承し、死亡事故ゼロを目指す。

③車両系建設機械に起因するレベルⅠ以上の人身事故件数を年間2件以下(新規)  
・前アクションプランの行動目標から更なる減少を目指す(年間3件⇒年間2件)。



東京都水道局が平成24年(2012)から取り組む「水道工事事務事故防止アクションプラン」も高木氏が携わったものの一つだ (提供:東京都水道局)

傾けた安全活動を推進していただきたいと思えます。

●水道工事の頻発事故13

1	第三者災害
2	一般車両による作業員及び誘導員の災害(もらい事故)
3	ダンプトラック等、重機の移動による災害
4	掘削作業による災害
5	舗装作業 ローラーによる激突災害
6	土留め支保工組立・解体作業による災害
7	クレーン及びバックホウを用いた荷上げ・荷下ろし作業による災害
8	管布設作業の特有災害
9	はしごからの墜落災害
10	作業員の転倒災害
11	機械・設備関連作業の労働災害
12	強風による災害(工事看板等の飛散)
13	立木の伐採・伐倒作業による労働災害



高木 元也(たかぎ もとや)

【現職】  
独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 安全研究領域 特任研究員 博士(工学)

【略歴】

1983年名古屋工業大学卒業。総合建設会社にて、本四架橋、シンガポール地下鉄、浜岡原子力発電所等の建設工事の施工管理、設計業務、総合研究所研究業務、早稲田大学システム科学研究所(企業内留学)、建設経済研究所(社外出向)等を経て、2004年独立行政法人産業安全研究所(現:独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生研究所)入所。リスク管理研究センター長、建設安全研究グループ部長、安全研究領域長等を歴任。2021年より現職。

【社会における主な活動等】

厚生労働省 人生100年時代に向けた高齢労働者の安全と健康に関する有識者会議、厚生労働省「見える」安全活動コンクール優良事例選考委員会、厚生労働省 設計・施工管理技術者向け安全衛生教育支援事業の検討会、建設業労働災害防止協会 建設業における外国人労働者の教育及び安全衛生標識等就労環境のあり方に関する検討委員会、一般社団法人住宅生産団体連合会 工事CS・安全委員会、他

【主な著書・映像教材】

- ・「登録基幹技能者共通テキスト(第5版)」 共著 建設業振興基金 2022年
- ・「凶器に変わる! 突然襲う! 建設機械の安全対策」清文社 2022年
- ・「安全指示をうまく伝える方法 改訂 オンラインミーティングを活用した新しい指示の伝達方法」\* 労働調査会 2021年
- ・「高齢労働者が安全で健康に働ける職場づくりーエイジフレンドリーガイドライン活用の方」 共著 中央労働災害防止協会 2020年
- ・「墜落災害防止 17の鉄則」\* 労働調査会 2019年
- ・「危険軽視によるヒューマンエラー 常に安全行動を。そのためには?(DVD)」\* 監修 労働調査会 2018年

\* 弊社建設産業図書館で所蔵しています



全国各地の水風景を「音」で描き出す  
ラジオ番組を通じ水の価値を「みなおす」

メタウォーターpresents「水音スケッチ」番組収録の様子(写真提供:メタウォーター株式会社)

災害で断水でも起きないと、水のありがたみは感じにくい。しかしそうではなく、日頃から水インフラの重要性を意識してほしい。そうした願いから放送を開始したラジオ番組がある。TBSラジオが平日の昼過ぎに放送する「メタウォーターpresents」『水音スケッチ』(以下、「水音スケッチ」)。

番組の企画・制作にはどのような思いが込められているのか――。

神

奈川県横浜市南区の紹介から始まるその回は、北条政子が掘らせたという井戸の話題である。ロケ地は、京浜急行本線井

放

送開始は平成27年(2015)10月。当初はプロ野球がシーズンオフでナイター中継がなかったため夕方時間帯だったが、半年後、中継が始まると、昼の時間帯に移動した。放送回数はすでに、1600回を超える。

その手段として選んだメディアが音だけですべてを伝えるラジオである。「深夜放送で育った私たちの世代はもちろん、いまの若い世代にもインターネットラジオを通して、ラジオは身近な存在です。ナレーションを中心に水風景を紹

身近なメディアのラジオで  
水をテーマにPRを展開

土ヶ谷駅に近い乗蓮寺。井戸はその寺内にある。承久の乱(1221年)を避けようと幕府のある鎌倉を逃れた政子が、この地に落ち着き、化粧用の良質な水を求めて井戸を掘らせたという。



北条政子が掘らせたと言われる「化粧の井戸」(神奈川県横浜市南区)

介するのには、ラジオは向いていますよ(千葉氏)。

退社し、同年4月にフリーに転向したばかりだ。

ロケ地やテーマの選定は原則としてメディア側に委ねる。TBSラジオで番組のディレクターを務める近藤孝氏は「ロケ地には、リスナーが行ってみたいと思いたいような場所を取り上げるように努めています」と明かす。ロケ地を設定したら、リサーチャーにその地域について徹底的に調べ上げてもらい、その情報を基にテーマを決める。

番組として重視しているのは、リスナーがロケ地の映像を思い浮かべ、その地域を訪れた気持ちになれるように、リスナーの想像力をかき立てること。「水の音を使わなくても水風景を思い浮かべてもらえるような構成を心掛けています」(近藤氏)。

SNSに持続危ぶむ声  
リスナーの多さを実感

風景を思い浮かべてもらうという点では、ナレーションを務める堀井さんの、淀みのないしっとりした声が必要な役割を果たす。元はTBS所属のアナウンサー。ナレーションや朗読に定評がある。令和4年(2022)3月に

「水音スケッチ」はどのようなもの、と番組の将来を危ぶむつぶやきがあふれました。番組を待ち望んでくれているリスナーの多さを実感しました。

放送開始から7年目を前に、提供元のメタウォーター株式会社も番組への反響に満足を覚える。

メタウォーターpresents『水音スケッチ』  
番組情報

メタウォーター Instagram公式  
アカウント「めーたーぐらむ by  
METAWATER」  
[https://www.instagram.com/  
metawater\\_official/?hl=ja](https://www.instagram.com/metawater_official/?hl=ja)

(画像提供:メタウォーター株式会社/TBSラジオ)

放送日時: 月~木曜日 12:26頃(6分間)「ジーン・スー 生活は踊る」内  
金曜日 12:26頃(6分間)「金曜ボイスログ」内  
放送局: TBSラジオ(FM90.5MHz/AM954KHz)  
放送エリア: 関東1都6県



こんどう たかし  
近藤 孝  
TBSラジオ  
メタウォーターpresents  
「水音スケッチ」  
番組担当ディレクター



ひらの まさたけ  
平野 雅丈  
TBSラジオ  
メタウォーターpresents  
「水音スケッチ」  
番組担当営業



ちば ひろゆき  
千葉 弘行  
メタウォーター株式会社  
コーポレートコミュニケーション室  
室長

今後とも長く番組が継続できるようにチーム「水音スケッチ」が一丸となつてファンづくりに努めたい」と応じる。

人間が暮らす場所には必ず水があり、そこで文化が生まれ、歴史が生まれてきたことを実感します。人間が暮らす場所ならどこでも、番組を作れるということに気付かされました。人間の文化や歴史に水は欠かせないものなのです」

# 超高層時代を迎えて50年以上 初期の超高層ビルを 歴史的建築として「みなおす」

日々新しいビルが建設されていく東京都心で、ふと以前から馴染んでいた建築をみなおすと、築50年前後の時が経過していたと知ることもある。50年と言えば、歴史的建造物として評価されてもよい築年数だ。

日本の、超高層のあけぼの、と位置付けられている霞が関ビルは、昭和43年（1968）築なので築54年。そして、超高層ビル街となった新宿新都心で未だ存在感を發揮している三角形の新宿住友ビルは、昭和49年（1974）築で築48年だ。

な建築だったと言える。

霞が関ビルでは、平成元年（1989）以降3回にわたる大規模改修で、空調や電源、給水システム、共用部の更新、隣接する霞が関コモンゲートや東京倶楽部ビルと一体化した広場の整備などが行われている。このように、改修によりビルの機能や外観、周辺環境を「みなおす」ことも、長期間にわたって建築を使い続けるために必要なことだろう。



2020年リニューアル後の新宿住友ビル(東京都新宿区 基本設計・総合監修:住友不動産株式会社、設計:株式会社日建設計・大成建設一級建築士事務所、施工:大成建設株式会社) (写真提供:住友不動産株式会社)



大型展示会、スポーツイベント、フードイベント、パブリックビューイングなど、さまざまに活用できる日本最大級の全天候型屋内イベントスペース「三角広場」。災害時などの有事には約3,000名を受け入れられる (写真提供:住友不動産株式会社)



中央部は全層吹き抜けが特徴の新宿住友ビル (写真提供:住友不動産株式会社)

## 日本建築史上の金字塔 国内初の超高層

昭和36年（1961）に、特定街区制度が設けられ、それまでの高さ制限が撤廃されたことにより日本の建築界は超高層時代に突入した。

霞が関ビルが日本最初の超高層ビルとなるまでには紆余曲折があった。当初、昭和36年には高さ制限内の9階建てで計画されたが、昭和38年（1963）に従来法規の特例利用で16階建てに変更。さらにビルの容積率を上げられる特定街区制度を申

## 日本初の200m超 超高層、新宿住友ビル

霞が関ビル以降、70年代には都内には続々と超高層ビルが建設されていく。

特に新宿新都心は超高層ビル街となり、日本一の高さを争うように次々にビルが並び建つようになった。

昭和40年（1965）に西新宿の淀橋浄水場が移転し、その跡地には、東京都が策定した新宿副都心建設計画に基づき、まず昭和46年（1971）に京王プラザホテルが建設された。その後、新宿住友ビル、KDDI（KDD）ビル、新宿三井ビル、損保ジャパン（安田火災）本社

請して、30階、35階、38階案などの試行錯誤を経て昭和39年（1964）に36階建築でまとも

ビル建設が進められることに。設計、建設工事においては、柔構造<sup>※</sup>、セルフクライミング方式、大型日形鋼の使用、大断面鋼材の高力ボルト接合、高速エレベーターなどの新たな技術が採用され、それらは後のビル建設を飛躍的に進化させた。

そうして竣工したビルは、従来の高さ制限が31mのところ、147mという約5倍の高さとなったのだから、やはり画期的

ビル、新宿センタービル、新宿野村ビルと、70年代だけで計7つもの超高層ビルが建設された。なかでも昭和49年に建設された新宿住友ビルは、日本初の200m超の超高層ビルとして計画されたもので、平面上の形が三角形。その三角形の各三辺にオフィス空間を配置し、中央部は全層吹き抜けというところも異色で、大きな注目を集めた。構造面では、外周部の柱や梁が太い外周チューブ構造を採用。地震時には建物全体がしなるように曲がり、揺れを吸収する。超高層ビルとしては、オフィスだけでなく、展望レストラン、スポーツ施設、カルチャーセンター、宝石店街などがビル内にある複合ビルとなった点も画期的だった。

令和2年（2020）には、ガラスの大屋根に覆われた三角広場を整備するなどの大規模改修が行われ、機能の更新、ビルの長寿命化を実現した。

東京に数ある超高層ビルも、徐々に築年数を重ね、中には解体・再開発されているものもある。しかしカーボン・ニュートラルへの配慮が欠かせない時代となり、既存ビルのあり方をみなおし、改修により使い続ける方向性を指すものが増えていくことに変化を感じる。

（文・鈴木伸子）

すずきのぶこ 東京生まれ。東京女子大学卒業後、雑誌「東京人」編集部勤務。1997年より副編集長。2010年退社後、都市、建築、鉄道、まち歩きなどをテーマに執筆活動を行う。

### ●関連図書のご案内

・『日本のベスト100』  
@関西人 著 / 写真提供 石原祥、中谷幸司  
エクスマレッジ 2016年

・『霞が関ビルディング』  
霞が関ビルディング50周年記念誌  
編集委員会(企画・編集)著 三井不動産 2018年



本編・写真編・資料編の3冊からなる霞が関ビルディング50周年記念誌

※弊社建設産業図書館で所蔵しています



霞が関ビルの前には2009年の改修で広場が整備された。写真は「霞テラス フラワーフェスタ2013」開催時の様子(写真提供:三井不動産株式会社)



現在の霞が関ビル(東京都千代田区 写真提供:三井不動産株式会社)



竣工当時の霞が関ビル(設計:山下設計、施工:鹿島・三井建設共同企業体) (写真提供:三井不動産株式会社)

※ 柔構造:建築物の耐震構造の一つ。建物自体がある程度揺れることにより地震エネルギーを吸収する構造のこと。この「柔構造」により、地震大国日本で超高層ビルの建設が可能となった



# 脱炭素社会の実現に向け 木の良さや性能を「みなおす」

4	3	2	1
7	6	5	
8			

1. 魚津市立星の杜小学校(2020年竣工 富山県魚津市 設計:東畑建築事務所・鈴木一級建築士事務所/施工:山形建機・東城・朝野工業共同企業体) 2. 八ヶ岳高原音楽堂(1988年竣工 長野県南牧村 設計:吉村順三設計事務所/施工:北野建設株式会社) 3. 「森林浴のできるクリニック」をコンセプトとした医療法人社団中郷会新柏クリニック。(2016年竣工 千葉県柏市 写真提供:株式会社エスエス 設計・施工:株式会社竹中工務店) 4. 白鷹町まちづくり複合施設は、高度な耐火性や積雪にも耐える構造を組み込んだ町民交流の場となっている。(2020年竣工 山形県白鷹町 写真提供:白鷹町役場 設計:仙田満+環境デザイン研究所/施工:那須・鈴木特定建設工事共同企業体) 5. サークス小屋のような屋根を持つ南相馬みんなの遊び場は、一步中に入ると肘木を積み上げた積層木構造のようにになっている。(2016年竣工 福島県南相馬市 写真提供:南相馬市役所 設計:伊東豊雄建築設計事務所・株式会社コンテンポラリス/施工:株式会社シェルター) 6. 都市部の大規模校舎としては全国初の耐火木構造を採用した江東区立有明西学園。(2018年竣工 東京都江東区 写真提供:江東区 設計:竹中・久米特定建設工事共同企業体/施工:株式会社竹中工務店) 7. 粟ヶ岳の山頂に位置するかつぼしテラスからは、茶畑や駿河湾などが一望できる。(2019年竣工 静岡県掛川市 写真提供:掛川市役所 設計:竹下一級建築士事務所/施工:株式会社尾崎工務店) 8. 京都木材会館は構造材に京都府産木材を100%使用した、純木造4階建てビル。(2016年竣工 京都府京都市 写真提供:京都木材協同組合 設計:ゆう建築設計事務所/施工:吉村建設工業株式会社・株式会社竹内工務店)



古くから日本人の暮らしに密接にかかわってきた最も親しみのある素材の一つ、木材。近年、木の良さや性能が見直され、木の特徴を生かした意匠性の高い建築物や中大規模の木造建築物も建設されるようになった。建築物への木材の活用は、脱炭素社会の実現に貢献する取り組みの一つとして注目を集め、社会への広がりを見せている。今号では、木の良さや性能を「みなおす」ことができる木材を活用した建築物を紹介する。

まずは、富山県魚津市の「魚津市立星の杜小学校」。文部科学省「木の学校づくり先導事業」による支援を受けた全国初のオール木造3階建て小学校だ。延焼を防止する壁等で耐火上安全な環境をつくりながらも、木の温もりをしっかりと残している。

続いて、長野県南牧村にある「八ヶ岳高原音楽堂」。木のホールならではの柔らかな響きが耳に心地よい。客席数は250席。アーティストを間近に感じられる特等席だ。千住真理子、渡辺貞夫、東儀秀樹などさまざまなジャンルの世界的アーティストが、このステージに立っている。

この他にも、木の良さや性能を「みなおす」ことができる建築物が数多くある。足を運んでみてほしい。



## 若手技術者を対象にした小冊子



### 『若手技術者育成のための環境安全管理ハンドブック』

若手技術者や将来の建設産業を担う学生に施工管理の入門書として気軽に読んで学んでいただけるよう、技術者に求められる知識をわかりやすく解説した『マンガでわかる若手技術者育成シリーズ』の最新刊です。

本冊子では、若手技術者である主人公が、工事の騒音や廃棄物の取扱いなど、現場で直面する課題や困難を乗り越え成長していく姿を通して、環境安全管理の大切さについて解説しています。マンガによるストーリーのほか、各章ごとに用語の説明やポイントの解説も掲載しています。



### マンガでわかる若手技術者育成シリーズ



### 『(新)現場代理人育成ハンドブック』

現場代理人が企業に利益をもたらすために必要となる能力について解説するとともに、現場代理人の育成ステップの具体例を紹介しています。



## 新入社員を対象にした小冊子



### 『建設フレッシュマン GUIDE BOOK 2022』

新入社員の方を対象に、建設業界で働くうえで覚えておきたいポイントを、「社会人としての基本」「仕事の基本」「建設業の基本」の3つの基本を軸に解説しています。

#### 第1部:社会人としての基本

働くことの意味などの社会人としての心構えや仕事に向き合う姿勢、コンプライアンスの基礎知識、SNSの使い方、健康・時間・お金の管理、ストレスへの対処方法など、社会人としての基本について解説しています。

#### 第2部:仕事の基本

職場内での人間関係の築き方、指示の受け方とホウ・レン・ソウの基本、身だしなみや言葉づかい、お客さまや取引先との接し方などのマナーの基本、ビジネス文書・メールの書き方など、仕事の基本について解説しています。

#### 第3部:建設業の基本

建設産業の社会的役割、建設業法の目的や関係法令の概要、公共工事・民間工事・土木工事・建築工事の流れ、安全衛生管理の重要性など、建設業の基本について解説しています。



## 建設企業向け小冊子のご紹介

弊社では、建設企業に向けた小冊子を刊行・提供しています。お客さまである建設企業をはじめ、建設業界の発展に微力ながら貢献したいとの思いから小冊子の制作を始めました。現在、10冊の小冊子を刊行しています。

弊社が提供する小冊子のテーマについては、現在、建設業界が抱えている課題の一つである担い手確保・育成に関するものを中心に取り上げ、経営者、若手技術者、新入社員のそれぞれを対象としたものを刊行しています。

経営者向けのもの、具体策と実践例を用いた解説になっているのが特徴です。若手技術者向けは、施工管理で重要な5大管理といわれている「品質管理」「原価管理」「工程管理」「安全管理」「環境安全管理」についてマンガで学べる内容になっています。新入社員向けには、写真やイラストを多用して理解しやすい誌面になっています。

それでは、現在提供している小冊子を対象者ごとにご紹介します。



## 経営者を対象にした小冊子



### 『事業承継ガイドブック』

弊社が2019年1月に行った「地域の守り手」アンケート調査の結果をみると、代表者の過半数を60歳代が占め、今後、多くの建設企業が代表者交代の時期を迎えると予測されます。事業承継を検討されている、または、これから勉強したいと考えている経営者向けに、事業承継を実行するまでの5つのステップ、事業承継事例、資産の承継でやるべきこと、事業承継に関連する法律などを分かりやすく解説したガイドブックです。

#### 事業承継を実行するための5つのステップ

- ステップ① 事業承継の必要性の認識
- ステップ② 経営分析・経営課題等の現状把握
- ステップ③ 事業承継に向けた経営改善
- ステップ④-1 事業承継計画の策定(親族内・従業員)
- ステップ④-2 マッチングの実施(社外承継)
- ステップ⑤ 事業承継の実行/M&A等の実行



### 『人材確保・定着ガイドブック』

建設業が将来にわたり“地域の守り手”としての役割を果たしていくためには、人材の確保・育成は喫緊の課題です。

本冊子は人材の採用・定着にあたり、ハローワークの活用方法や社内体制の整備など具体策と実践例を用いて解説しています。



### 『建設業のためのQ&A 経営事項審査』(令和3年4月改正対応版)

経営事項審査の概要、各審査項目の基準および評点の算出方法などについて、Q&A形式で解説しています。

経営事項審査の改正の都度、見直しを行っています。

これらの小冊子は無料でお配りしています。弊社、営業部・支店までお気軽にお問い合わせください。



# 安倍晴明と井戸

## その3 土公と犯土

**前回より**  
そもそも井戸はいつ頃からつくられ、そして井戸に対して人々は、どのような信仰を抱いていたのでしょうか。

井戸のはじまりについては、縄文時代以前の井戸遺構が発掘されておらず、現在のところ弥生時代からと考えられており、同時代中期になると発掘例は増加し、それらの井戸から祭具が出土することから、井戸の出現から時を経ずして祭祀も始まったと考えられています。

### 井戸の祭祀

祭祀の様相は、7世紀後半から10世紀頃までの律令時代に入ると明確になり、大阪府堺市の大庭寺遺跡では、掘方（井戸側および水溜めの外側部分）から木槌が、井戸底からは「清水」「上」「水」と墨書した土器が見つかっています。  
大阪府羽曳野市の野々上遺跡では、井戸の底から土器の甕9点が、3列×3列で並べられて出土しています。



井戸を埋戻した後に設置された須恵器甕と土師器皿 大阪府野々上遺跡 (羽曳野市教育委員会所有写真)

この井戸は8世紀の中頃に使用されていたと考えられていますが、井戸を埋め戻した後の地表近くに、9世紀代の土器の杯が据え付けられていました。これは井戸が使われなくなつて長い時間が過ぎた後でも、そこに井戸の神が宿ることを示すための祭具だったと考えられています。  
このように廃井戸にも祭祀が行われたのは、いかなる信仰によるものでしょうか。

### 地下の他界に住む神々

現代の私たちは、神の国といえど天上界をイメージしますが、古くは「神は地下にある他界に住む」と考えられていたという説があります。

民俗学者の佐野賢治氏は、日本には体系的な星神信仰が存在しないと指摘しており、一方で『古事記』にはイザナギが黄泉の国を訪れたり、オオクニヌシがスサノヲの住む根の国に赴くなどの話が見られることから、いにしえの日本人は星が瞬く天空よりも、地下にある別の世界を強く意識していたというのです。確かに『古事記』や『日本書紀』をみても、星の話や神々はほとんどみられません。

### 井戸は神の通路

発掘された井戸を見ると、自然堆積によって埋没するに任せており、一気に埋め戻していかないものが数多く発見されるといいます。

これは、井戸は地下の他界と私たちの世界を、神々が行き来する通路であり、急激に埋めてしまうと、井

でした。

土に住む土公という神と、土を深く掘ることによって崇られるという思想は、地下に他界があるという古来の信仰を受け継ぐ人々にとっては、受け入れやすかったでしょう。土公は、平安貴族たちにとって大変身近で、そして大変崇りやすい神として恐れられていったのです。

### 土木事業の空白期

この犯土思想については、10世紀をピークとして9世紀から11世紀にかけて「土木事業の空白期」を生み出したと指摘する研究もあるほどです。ただし、この時期には荘園制が発達し、中央集権体制が崩壊したため、大規模な土木事業ができなかったなど、別説もあるので真偽のほどは確かではありません。

しかし、『朝野群載』に掲載された賀茂保憲による犯土に関する説明文が、「勘文」(朝廷からの諮問に対する報告書)であったことを考えれば、犯土思想が当時の政治にある一定以上の影響を与えていた可能性はあります。

### 井戸と陰陽師

しかし、大規模な土木事業はともかく、人が生きていくうえで、どうしても三尺以上、土を掘らなければならぬ場合があります。それが井戸だったのです。

井戸から水を得るためには、地下の帯水層まで穴を掘らなければなりません。それは、91cm以内という

わけにはいかない場合も多々あったことだと思われれます。実際、犯土思想が華やかなりし時代にも、それ以上の深さの井戸遺構が見つかっています。  
そして、井戸を掘削する際に土公の崇りを避けるための場所と方角を教授し、万一それがかなわない場合には土公を鎮めるための土公祭を行い得る存在が、外ならぬ陰陽師だったのです。

### おわりに

9世紀から11世紀の間、土を掘る行為自体が避けられた時代に、陰陽師たちはつつがなく井戸をつくるための祭祀を執り行ったため、人々の意識に井戸と陰陽師が深く関連付けられたのは想像に難くありません。  
貴族相手の井戸の祭祀は、官人陰陽師のみならず、法師陰陽師のような民間陰陽師も執り行うようになり、さらには広く民間へと伝わっていったのではないのでしょうか。

例えば中世に、井戸掘りに関する専門の技術者であり呪術者であった河原者は、その流れで誕生したのではないかと考えています。前回述べたように、彼らの中には近世にいたつて、土御門家支配下の陰陽師になった者もいたはずであり、各地で井戸の掘削と祭祀を行ったことでしょう。こうした考えを証明する史料は残されていないようですが、安倍晴明伝承と井戸の関係が、その証拠であるように私には思えるのです。

(文：江口知秀)



六道珍皇寺にある童叟逢通いの井戸(京都市東山区)。平安時代の貴族だった小野篁が、間魔王の裁判を補佐するため、この井戸から冥界に通ったという伝説がある(2011年撮影)

るようになっていました。では、なぜ彼らが井戸の祭祀を司るようになっていったのでしょうか。  
この時期の井戸からは、「土公水神王」と墨書された土器の皿が見つかっており、「土公」と「水神王」の二つの神を祀っていたことが明らかになっています。  
このうち、水を司る「水神王」は井戸ゆえに関連性が理解しやすいと思いますが、「土公」は現代の私たちに馴染みが薄い神だと思えます。しかし、この神の存在こそが、陰陽師が井戸の祭祀者になった要因だと、私は考えています。



井戸から出土した「土公水神王」と墨書された土師器皿 嶋上郡衛跡(大阪府高槻市)(大阪府立狭山池博物館(編)「水にうつる願い 平成18年度特別展図録」p.32より転載)

### 土公

土公は、どここう、どこくう、ちぎみ などと読み、土のエネルギを人格化したもので、中国の三国時代の史料にはすでにその名が見られ、日本には9世紀半ばには伝わっていたと考えられています。

土公は、地中を住処としながら季節ごとに居場所を変え、または60日

2022夏号をお届けします。今回は「みなおす」がテーマです。以前、社内報で役員にインタビューをした際、「前例踏襲は思考停止の代名詞。今までこうしてきたからそれでいいのだ、というのは脳みそが働いていない人の発想」という話を聞きました。自分に当てはまる話だったので衝撃を受けました。こと仕事においては、前任者から引き継いだマニュアルと前年度の書類やデータを元に進めてきたからです。

前任者たちが試行錯誤して作ったマニュアルはだれにでも分かりやすく整備されたもので、あれば大変助かりますが、そこに書かれていることが「なぜそうなっているのか?」「本当にそうか?」「こうした方が良いのではないか?」と見直し、常にブラッシュアップする姿勢を持たなければいけないと思いました。

「みなおす」意識を持って仕事してみると、「なるほど、だからこうなっているのか」と納得する部分も改善点もたくさん見つかりました。

ここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響により、働き方や生活様式など、さまざまなことを見直さなければならず、ストレスの多い日々を過ごしてきましたが、「みなおす」という行為はきっと無駄ではなかったのだと思います。

特集一覧

2011年	2012年	2013年	2014年
冬：むすぶ	冬：ともす	冬：あつまる	冬：よみがえる
春：まなぶ	春：まもる	春：うごかす	春：のばす
夏：ひらく	夏：まもる2	夏：そだてる	夏：はかる
秋：のこす	秋：60周年	秋：おさめる	秋：たくわえる
2015年	2016年	2017年	2018年
冬：へらす	冬：くみあわす	冬：しる	冬：つかう
春：もてなす	春：ささえる	春：やすむ	春：かえる
夏：さかせる	夏：つなぐ	夏：いかす	夏：ふせぐ
秋：こわす	秋：たのしむ	秋：あゆむ	秋：つたえる
2019年	2020年	2021年	2022年
冬：あたたまる	冬：とりくむ	冬：ひきつける	冬：かさねる
春：かんがえる	春：つなぐ2	春：つたえる2	春：むきあう
夏：めざす	夏：たかめる	夏：ふかめる	
秋：みせる	秋：みちびく	秋：ととのえる	

EAST TIMES

禁転載

東日本建設業保証株式会社  
https://www.ejcs.co.jp

事業内容：公共工事の前払金保証、中間前払金保証、契約保証、契約保証予約

公表資料：公共工事の動向、建設業景況調査、建設業の財務統計指標

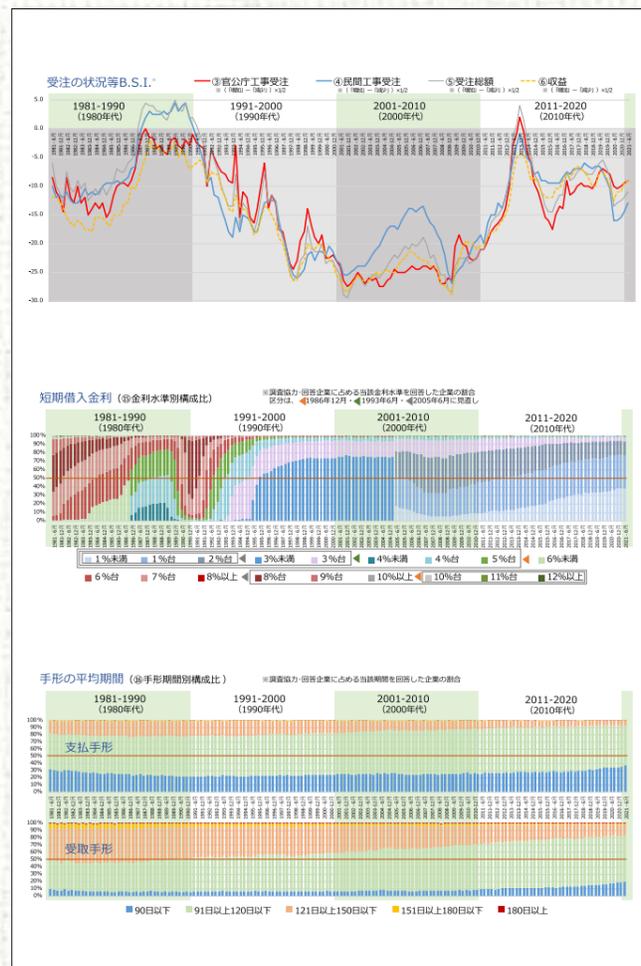
公開施設：建設産業図書館  
https://www.ejcs.co.jp/library/

※本誌の掲載文のうち、意見を述べた部分については、執筆者の個人的見解であることをお断りします。  
※誌面に関するご意見・ご要望などお待ちしております。

『景況調査40年の結果に見る建設業の歩み』と題する小冊子では、各指標の時系列データをグラフ化するとともに、各種公表データとの対比も示しています。また1980年代から10年単位で、各年代の特徴や建設産業を巡る主な出来事をまとめた参考資料も併せて掲載しています。各年代に示していた水準を集約し、これと比較対照することで、今後の結果分析に活用することが考えられます。

「20世紀最後の20年」と「21世紀最初の20年」の2つの時代にまたがる40年間の建設業の歩みを映し出す情報として、幅広くご活用いただければ幸いです。

●小冊子に掲載しているグラフの例



詳細は弊社ホームページからダウンロードしてご覧ください。  
URL: https://www.ejcs.co.jp/report/survey-business-conditions/40-year-history/

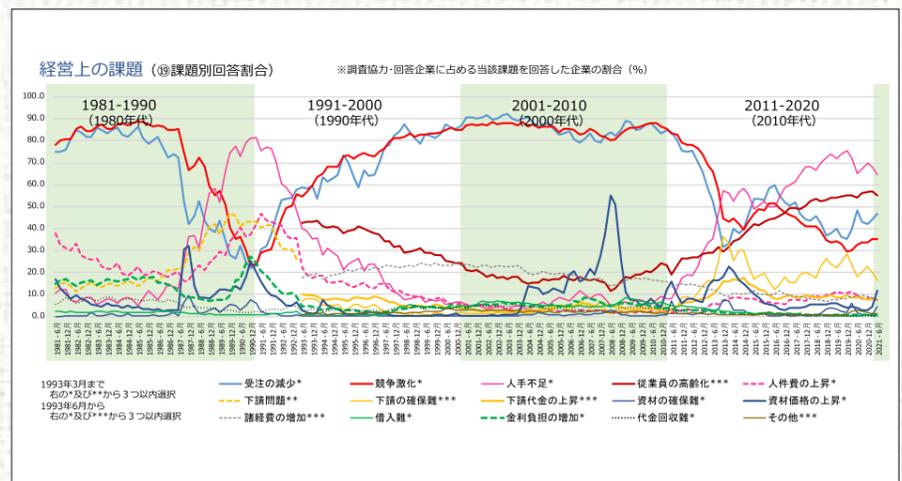
景況調査40年 東日本建設業保証

「建設業景況調査」は、弊社を含む前払金保証事業会社3社が連携して実施している建設業の意識調査です。地域における建設業の業況、資金繰り、資材・労働力確保の難易など、建設業を取り巻く経済的環境やそれに対する意識について、四半期ごとに、調査時点における状況や前回調査からの変化を示す指標を公表しています。建設産業政策の基礎的な資料として、行政その他関係方面において活用されています。

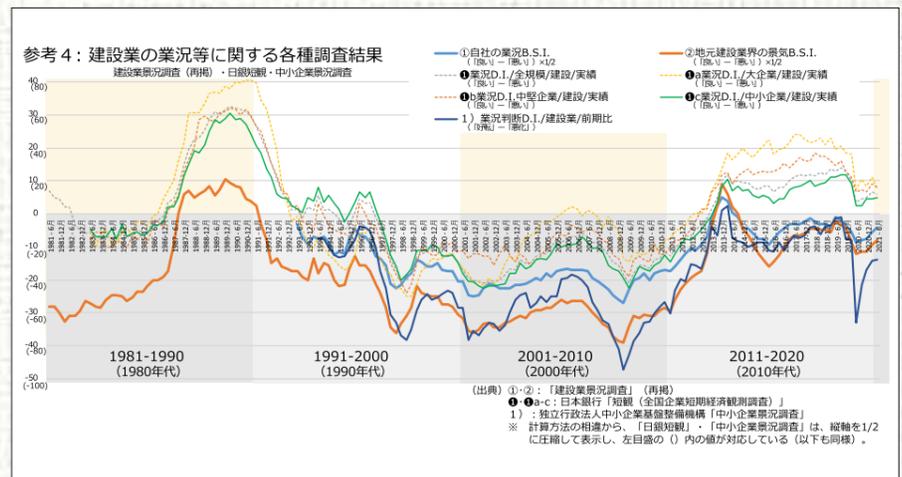
この調査は、当時の建設省（現国土交通省）の要請を受け、昭和56年（1981）6月に第1回調査を実施しました。昨年6月の調査をもって、満40年を迎えることとなりました。調査にご協力いただいております皆さまには、改めて深く感謝申し上げます。

結果公表に当たっては毎回、各指標について過去10年ないし3年さかのぼり、推移を併せて示してきたところですが、調査が満40年を迎えたことから、昭和56年から40年間の時系列データとして、弊社ホームページにおいて公開します。

ここでは、その中から2つのグラフを紹介いたします。



「経営上の課題」の移り変わりを示したグラフです。2000年代までの「受注の減少」「競争激化」に苦しんでいた時代を経て、2010年代には「人手不足」が課題の上位に浮上した状況が刻印されています。



建設業の業況等に関する各種調査結果を示したグラフです。建設業を取り巻く過去40年の経済的環境の推移を「日銀短観」などの関連指標と組み合わせ、業況の変化を複眼的に見渡せるようにしたものです。



景況調査40年の結果に見る  
建設業の歩み

保証事業を通じて  
安全で活力のある社会を創るための お手伝いをしています



東日本建設業保証株式会社